

7) 神経内視鏡的第三脳室底開窓術を施行された3例

勝山	幸一	・土谷	修一	
大塚	岳人	・佐藤	尚	
和田	雅樹	・松永	雅道	(新潟大学)
内山	聖			(小児科)
安達	博	・菅谷	進	
相田	浩	・田中	憲一	(同産婦人科)
森	宏			(同脳神経外科)

【緒言】従来、水頭症の治療には脳室-腹腔短絡術(以下 V-P シヤント)が行われてきた。しかし同法には合併症が多く、近年神経内視鏡的手術(以下 ETV)が試みられており、小児、成人では確立されつつある。我々は、ETV を施行された新生児例を3例経験したので報告する。

【症例1】脊髄髄膜瘤, Arnord-Chiari 型奇形。0 生日に脊髄髄膜瘤修復術施行。18生日に ETV 施行。しかし水頭症の改善なく60生日に V-P シヤント施行。

【症例2】中脳水道狭窄による水頭症。1生日に ETV 施行。翌日、頭囲は縮小したが頭蓋内出血と中枢性尿崩症が出現。その後水頭症が再増悪し63生日に V-P シヤント施行。尿崩症には DDAVP 治療が必要となった。

【症例3】Dandy-Walker 症候群。2生日に ETV 施行。翌日、頭囲は縮小したが頭蓋内出血が出現。その後水頭症が再増悪し、77生日に V-P シヤント施行。

【まとめ】症例1ではくも膜顆粒の未熟性のため髄液吸収が不十分だったと考えられた。症例2, 3では over drainage により頭蓋内出血し、髄液吸収障害が生じたと考えられた。症例2の尿崩症は術中に下垂体柄を損傷したためと考えられた。

【考察】自験例からは ETV は新生児期の水頭症には有効ではないと考えられた。

8) ヘルペスウイルスによる劇症肝炎で死亡した1男児例

細田	和孝	・伊藤	末志	
吉田	宏	・五十嵐	宏三	(鶴岡市立荘内病院)
松澤	幸恵			(小児科)

症例は5生日の男児で発熱を主訴に紹介入院した。炎症反応は軽度であり、各種細菌培養検査は陰性だった。なお、母は分娩日より発熱があったが、ヘルペスウイルス感染を疑わせる症状は認めなかった。入院後、肝酵素の急速な上昇があり、出血傾向、高アンモニア血症を

認め、10生日に死亡した。necropsy を行った肝臓より PCR 法にてヘルペスウイルスが検出された。若干の文献的考察を加え、報告する。

II. 特別講演

「乳幼児のマス・スクリーニングに関する最近の動向」

東邦大学 学長

青木 継 稔 先生

第12回新潟周産母子研究会

日時 平成13年3月17日(土)

午後2時より

会場 新潟大学医学部  
有壬記念館二階

I. 一般講演

1) 術後管理に難渋している先天性食道閉鎖症の一例——CHARGE association か?——

金田	聡	・岩渕	真	
内山	昌則	・八木	実	(新潟大学)
飯沼	泰史	・大滝	雅博	(小児外科)
松永	雅道	・和田	雅樹	
佐藤	尚	・大久保	総一郎	
赤坂	紀幸	・山崎	恒	(同小児科)

術後、多くの問題をかかえる食道閉鎖症の1例を報告する。本症例は、脈絡膜欠損、精神及び成長発育不全、難聴を伴い CHARGE association が疑われる。

症例は、2歳女児。生後、先天性食道閉鎖症(Gross C)にて根治術を施行。その後、咽頭での通過障害による呼吸障害、嘔吐を契機とした低血糖による痙攣、ウイルス性細気管支炎による熱発などのために計5回の入院をしている。アレルギーが強く経口も受け付けられないため栄養管理も困難となっている。本症例は、現在の問題だけでなく、精神発育遅延などの長期的な問題もかかえており、今後の経過を多方面から追っていく必要があると考えられる。